

## 議長記者会見（第36回）会見録

日時：令和2年6月29日（月）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う稲村議長（右）と善田副議長（左）

どうも皆さん、ご苦労さまでございます。

6月議会が無事に終わりましたので、まず、私から自分なりの所感をさっと述べさせていただきますので、お願いいたします。

私は3月23日に20年ぶりに議長になりました。2回目ですからものすごく楽だろうと思ったのですが、大変緊張して約3ヶ月間を過ごさせていただきました。

特に、ご承知のように、新型コロナウイルスの感染ということで、4ヶ月ほど前、石川県の第1号感染者が、しかも県庁職員だったと、こんなことを思いますと大変緊張感もあったわけでございます。

自分なりに思いますと、普通、ずらっと並べると、様々な議長としての公務が羅列されておりましたが、すべて中止、延期、書面決裁というようなことで、この3ヶ月の間で、議会は別にしてですが、3件ほどでしたかね、公務で出席した会合は。そんなことを思い返すと、本当にコロナで翻弄されている議会かなあと。まあ、皆さんも同じだろうと思いますが、そんな思いでございます。

感染症につきましては、皆さん方も毎日の報道でご承知のとおりだと思いますし、私どもは、議会として、どのようにして県民の声を県政に伝え、そして、みんなの安全・安心を守るための施策をどうすればいいかというようなことに、大変苦心をしたわけでございます。特にその中でも、石川県の感染症の患者の数が、全国で11番目ということで、特定警戒都道府県にも指定されまして、なお一層、緊張感も走ったわけでございます。そこで議会として行えることは、まずは県民が安心できるような予算を確保し、スピード感を持って、国とは別の角度で石川県なりの対策ができないかなあと、こんな思いもありましたので、各会派の代表者の方々にお集まりをいただき、ご意見を聞き、そして知事部局に申し入れをしたいと、率直にお話ししたいと、こんな思いでいましたところ、4月でしたか、早めに臨時議会を開催して、それなりの議決をいただいたと、こう思っております。

国の施策も、施策としての反映は早く打ち出されましたが、実施には大変スピード感に欠けていたのではないかなあと、地方の権限、そしてまた、経済活動等々にも支障を来すということで、県独自の施策をとということで、知事も感染症の防止を進められたということで、私も評価しているところでございます。

4月28日に臨時会で補正予算を通したのですが、この6月も補正予算を計上しております、その中でも特に第二波に備えた対策については、しっかりとしていただきたいということが、6月定例会のテーマになっていたのではないかなあと、こんなふうに思います。

今議会は、ご承知のように私からの発案で、大変なご苦勞をされた医療従事者、医療関係の皆様への感謝の気持ちを拍手で伝えたということから開会をさせていただいたわけでございます。今回の予算につきましても、知事なり知事部局の気持ちというのは、新型コロナウイルスの1日も早い感染防止策をとということで、今までにかつてない、県の財政調整基金もほとんど底をつくぐらいの約80億を費やして対策をとられた。また、その都度、その都度議会を開くということは、なかなか手続的にもスピード感に欠けますので、今までにかつてないほどの30億という予備費を積み立てたことは、県政史上初めてのことでないかなあと、即、知事のサイドでスピード感を持って、県民の安心・安全のために手立てできる。このことに関しては、大変、大きな成果でなかったかなあと、こんな思いでいるところでございます。

また、この後、いろいろ質問があろうかと思いますが、例年5月に行われる東海北陸7県議会議長会も開催が中止になり、書面での議案審議となったわけでございますが、6月17日でしたか、私も初めて、Web会議を経験しました。たまたま静岡県が議長県でございま

したので、静岡県さんの発案で東海北陸7県議会の議長会、顔を合わせていない方もたくさんいらっしゃいましたし、正副議長の紹介というようなものから始まって、それぞれの県で今現在の対応している議会活動の報告等をしたわけですが、すべての県が、コロナ一色でございました。また、Web会議というものは、私自身、慣れていないものですから、あいそもない会議かなあと、やはり面と向き合って丁々発止するのが会議ではないかなあと、こんな印象をもったわけでございます。

議会活動をご報告申し上げますと、毎年、楽しみにしておりました8月に行われております「ふれあい親子県議会教室」、昨年も60組を超える親子の方々に参加していただきましたが、今年は感染防止という観点から中止ということになったわけでございます。

次に、議会改革につきましては、今日の議運で決定していただきましたが、今年の3月から各委員会にタブレット端末を持って入るということを議題にして、議会改革推進会議で検討をしてきましたが、その使用基準が決定しましたので、今日、私から議運にお諮りをし、承認されて、9月以降の各委員会に議員さんがそれぞれ、タブレット端末を携行できるというようにしました。

随分はしょりましたが、かいつまんで申し上げたので、この後、質問をしていただければいいかと思えます。以上です。

#### <質疑応答>

##### 記者

細かい話になりますけれど、この議会で垣間見えた知事の認識とか、人生哲学とか理念に関する質問なんですけど、6月22日の定例会の一般質問で、打出議員が質問されたことなんですけど、「過労死ラインを超える県職員、知事部局の職員は何人か。そして、知事の県内の地方公務員に対する思いを聞かせてください」という質問に対して、谷本知事は、「コロナが収束したのは、県民や医療従事者、社会インフラを支える皆様方の尽力の賜だと感謝申し上げます。そして、地方公務員にも感謝を申し上げます」と、そして「かつてない局面に立ち向かっていかなければならない。それだけに行政が果たすべき役割は重要だ。県内の地方公務員の皆さんには、引き続き、それぞれの分野において職務にご精励いただくことを心からお願いしたい」と述べた。その後、吉住総務部長が「142人である」と言ったんですけども、吉住部長の答弁の中には、「できる限り効率的な業務運営を図っていくことは言うまでもない。職員の勤務時間をしっかりと把握することは、健康管理の観点から大切なことだ。引き続き適切な把握等に努めてまいる」という答弁があったわけですけど、知事は特段、人員配置を考えるだとか、適材適所こういうふうにか動かすとか、そういう将来どうするかについて言及が一切なかったのですが。

知事の発言をいつも聞いていて思うのは、なんか配慮みたいなものが全くない。細かい

配慮がなくて非常に雑なような気がするのですが、議長、この過労死ラインの答弁に特化してまず伺いますけど、どのように受け止められますか。

稲村議長

知事のことを思って私にご質問されても、私には非常に答えにくいのですが、吉住総務部長にそういう部局のことは、お任せになっていらっしゃるということと、過労死については、これは大変な社会問題ですから、厳格に守っていかないと。これは人の生命に関わることであります。その辺りでは知事の答弁では、少し配慮がなかったのかと思いますが、今、あなたが読んでいるのは、それは議事録だろうと思いますが。

記者

はい。私が起こしたものです。

稲村議長

私も詳細には知事の答弁を覚えてはおりませんが、そういうような答弁があったなどということは覚えています。そういう点に関しての配慮は少し欠けていたのかなという気もしますが、人格をどこまでっていうことになると、それは私から評価することはできません。

記者

人格とまでは、私も申し上げていなくて、そういう言葉とか政策には、首長さんの哲学とか理念とか、心構えみたいなものが現れてくるじゃないですか。まあ、そういうふうに鷹揚に申し上げたままで、別に人格をと言うわけではありません。

稲村議長

それは、知事の一連の発言でも、ちょっと言い過ぎた点も足りない点もあったんだろうと思います。

記者

すいません。ありがとうございます。

記者

知事に要望される前の各会派の代表者が集まれた会議を取材したのですが、その中でコロナの対応を巡って、知事と幹部、緊張感が欠けるようなところもあったというような発言も参加された議員からありましたが、20年ぶりに今回議長に就かれて、この20年の間、谷本県政を見られて、今回のコロナに限らずですが、何か緊張感が欠けるよ

うなところがあると感じるところがありますか。

稲村議長

具体的にはございませんが、特にこのコロナでありますと、出だしの発言、「無症状なら石川県にどうぞ」って、あのようなこととか、ドラッグストアのこととか、それらをちよっと見ると、少し軽いかなあと、そういう意味では緊張感が欠けているかなあというところがあるかも知れませんが、全体的な行政全般を見れば、しっかりやっておられるのではないかと、こう評価していますけどね。

記者

特に20年で変化とか感じられたことがありますか。

稲村議長

それはやっぱり新幹線も開通しましたし、5年経って、あと3年もしたら敦賀まで開業しますし、開業した当時のあの賑わいというものを、やはり1日も早く石川県に取り戻すことが、現在の知事の活力だろうとっておりますので、1日も早く終息させることに全ての方々が全力を挙げることが大切じゃないかなと思っています。

記者

ありがとうございました。